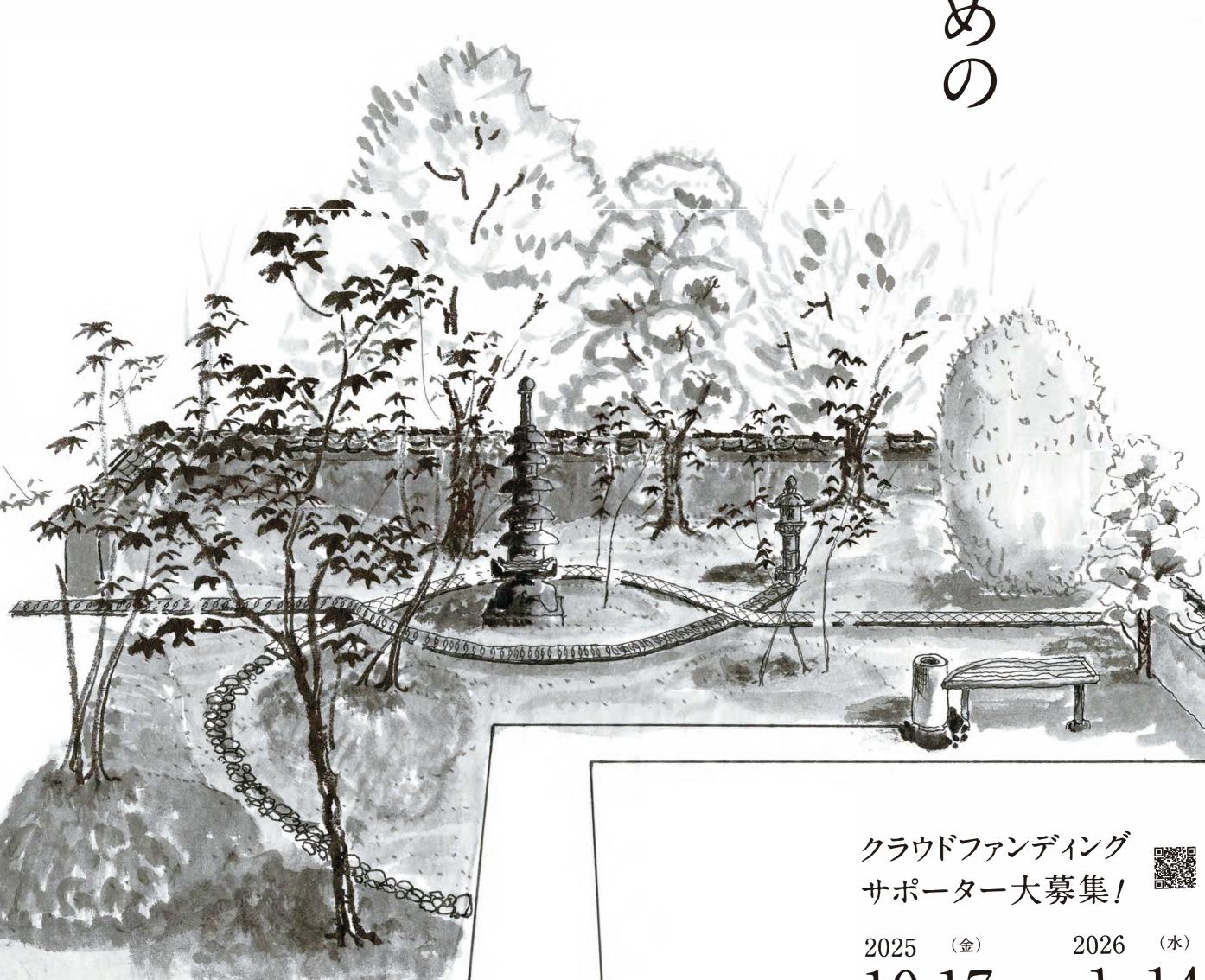
長榮山勝巖院

クラウドファンディング企画

庭がみんなのかった。



 $10.17 \sim 1.14$

:長榮山勝巖院 主催 職人パートナー :いのはな夢創園

企画プロデュース:佐伯圭介(星ノ鳥通信舎)

制作ディレクション:小野友資(Y小) 域内コネクション :コミュニティ・バンク京信 : Japanese Garden TV 広報協力

お問い合わせ 長榮山勝巖院

TEL 075-821-5680 Mail info@shogan-in.com

お坊さんと京の庭師による

クラウドファンディング企画

勝巖院(第23代住職:立田歓学)では、地 となる庭へと再構成を図ります。 域にひらかれたお寺づくりを目指し、2025年春 からお寺の建てなおしの準備を進めてきまし た。このたび、その第一弾として本堂広場と方 まが集い、安らげる空間を整えていきます。

庭をまっさらなものにつくり変えるのではなく、 荒れてしまった庭を一度解体しながら、現在の

職人パートナーには国内外で活躍する造 園家・猪鼻一帆氏(いのはな夢創園)を招き、 みんなで(つくる)・(つかう)・(まもる)ことをテー 丈庭園を一体的につくりなおし、地域のみなさ マに、日本庭園をさまざまな形でひらいていきま す。本プロジェクトに際しては、2025年10月17日 (金)~2026年1月14日(水)の90日間、京都新 聞社が運営するTHE KYOTO クラウドファン かたちがつくられてきた背景を読み、その上にディングにて皆さまからのご支援を募らせていた 400年にわたるお寺と地域の歴史を編みなお だきます。お一人おひとりにあった形のご縁がご すことで、いま・これからを生きる人々のよりどころでいましたら、ご参加いただけますと幸いです。



現在の庭のすがた/方丈庭園

クラウドファンディングの情報

 $10.17 \sim 1.14$

受付場所: THE KYOTO クラウドファンディング (京都新聞社)



日時:2025.10.26 (日) 16:00~17:30

会場:勝巖院 方丈の間 / オンライン配信あり (Zoom)

定員:40 名程度(先着順)

参加費:無料

お申し込み:お電話またはQRコードより事前のお申し込みをお願いいたします。 当日参加も若干受け付けいたしますので、お気軽にご参加ください。



勝巖院 / SHOGAN-IN

肥前国佐賀藩の鍋島家にゆかりのある浄土宗の お寺で、慶長2年(1597)鏡誉上人の開山。大名の 娘(直姫)を失ったさびしさを機に、姫の冥福を祈っ た同家から寄進された御殿の一部や自愛品などに よって現在のお寺の姿がつくられる。境内1,300坪。 ご本尊は阿弥陀三尊。



お寺が建つ場所は、平安宮の大内裏の向かいに あった「宴松原」と呼ばれる松林にあたり、承和元 年(834)には弘法大師・空海によって密教の加持 祈祷を行う「真言院」が設けられた。

〒602-8352

京都市上京区下立売通千本西入ル稲葉町472 TEL 075-821-5680



支援はこちら

参加はこちら

立田 歓学 / Kangaku Tatsuta 長榮山勝巖院第23代住職、高等学校教員。

大学卒業後より住職を引き継ぎ、同時に教育の道 に進む。現在までお寺と学校を兼務。「教育は対話 を通じた合作として成る」ことを信条に、一人ひとりの 立場や環境に寄り添う法話のかたちを大切にする。



①京の街を見つめる阿弥陀三尊/本堂 ②方丈廊下に差しこむ朝日

③崩れ落ちた石造物/方丈庭園 ④散華とお守り/返礼品のひとつ

庭の現在地とこれから

のかを知るための記録は手元に残っていま的な寄り合いの中でつくられ、なにかの事情かつての庭づくりの過程を引き継ぐとともに、 せん。庭師と行った調査によれば、地形の作で複数回にわたり組み換えられてきた背景が みんなのお寺のための「みんなの庭づくり」に りかたや石の据えかたなどから当時の庭師が 浮かび上がってきました。今回、クラウドファン 向けた趣意書を新たにまとめました。

現在の庭がいつ、だれによってつくられた。作庭したものではなく、今でいうワークショップ。ディングを通じた新しい寄り合いのかたちで、

3 h 祈りを語りつぐ 遊びをはぐくみ、 生きるを養う なの庭づくりに向 ここに、みんなのお寺のために機能する「庭」の の場所の価値に向き合い、何万何千の教えとゆとりのある庭 代から十二世紀にわたるこの場所に宿されてきた物語を記憶 いて、学べるものや遊べることがある。学校のルーツにあたるお寺 その中間のようなところにあるお寺だからこそ、出会える人が ない弱さを抱えて生きるひとびとが日常的に駆けこむことがで し、その祈りがことあるごとに引き出される。語るものと語られ え、開祖の考え、故人の思い。お寺として四世紀、平安京の時 きる機会を庭がひらくとき、 だけではなく、日常的に触れ、使うことによって、庭は「生きるこ とを養う場所」としてはたらく。 それは記憶装置としての庭。 それは福祉環境としての庭。たまに訪れ、観て、癒しを得る それは遊学舞台としての庭。家でも学校でも職場でもない。 三つのはたらきを記す。 学びをひら 同時にひと本来の可能性もまた けた趣意 市中のかくれ寺と して、見え

みんなの歌

「みなそこへ選択しむる道行に 草木はさがを去りて色香う」

意味:それぞれ生きるために選択する道は 違えど、最終的な行先である浄土の境地に に関連し、勝巖院には女人往生(女性救済) 立てば、底はおんなじ。その道行にたゆたうの象徴的な存在として、奈良時代の〈中将 草木は性(別・格・質)の区別とは無縁なと 姫〉の生きざまを描いた絵巻が大切に引き継 ころで「ただ・いま」を色や香で伝える。

ムと景色を庭の中からはぐくむ。

背景:お寺のはじまりのきっかけとなった直姫 がれています。今回、中将姫が残した和歌『な 意図:みんなの居場所をまもるためのリズ かなかに山の奥こそ住みよけれ 草木は人のさ がを言わねば』を本歌取りした歌を創作。



当院収蔵の中将姫縁起絵図より

庭とともに生まれる景色

本堂広場 方丈庭園 本堂広場は、伸びやかな芝庭に仕上げま 方丈庭園は、建

す。京都の街を左見右見するように南を向か れるご本尊(阿弥陀三尊)と向き合う広場を 「南座」として、ひとり静かな参拝や散歩から、 みんなで賑わう催しまで、オープンスペースとし て開放的な空間にしていきます。

物の二辺をL字型 に縁取りながら東西·南北に約20mの幅をも ち、その西門から東門へと庭を横切ると、本堂 見られた「極楽浄土」を再現するものではなく、情でひとに寄り添います。



西方(浄土)から続く「道」そのものを描くこと で、そこへ向かう道中の風景や心情の多様さ を映しだし、いま・ここに生きるひとびとの物語が 花ひらく「道行の舞台」として庭を立ちあげま す。春は新緑でほほ笑み、夏は青葉が茂る。秋 前の広場につながります。これまでの寺庭によく は紅葉で装い、冬は静かに眠り、さまざまな表



INOHANA MUSOUEN

職人パートナー: 猪鼻 一帆 / Kazuho Inohana

1980年京都生まれ。一級造園技能士。 建築とは異なり、自由な線と生きもので構成さ れる庭の空間に魅了され、庭の世界へ。熊 づくりを開始。後年にいのはな夢創園を継承

国内では kudan house (東京) や竹中大工 道具館 (兵庫)、無量山永興寺 (京都) を はじめ、邸宅・店舗・オフィス・ミュージアムな どの作庭を幅広く手がけるほか、近代住宅建 築の名作「聴竹居」(京都)の管理も担当。 国外ではモンゴルの某国大使館をはじめ、アメ リカやドイツ、ベトナムなどで作庭を行う。

サポーター大募集! ~みんなの庭づくりの参加方法~

①庭を(みんなで)つくる

佐伯 圭介 / 星ノ鳥通信舎

担当。「みんなの歌」を創作。

企画プロデュース:

庭に受け継がれてきた職人技を間近で体 などにご協力いただきます。見学のみも可。

京都を拠点に活動する文化企画編集室。再

建プロジェクトに向けたリサーチからこれからのお

寺の構想デザイン、庭園のディレクションなどを

②庭を(みんなで)つかう

制作ディレクション:

小野 友資 / Y小

2026年3月に行う庭づくりに参加し、京都の 2026年4月~6月にかけて、庭園をさまざま角 次の春 (~ 2027年3月)まで約1年間 度から楽しむことができるイベントや寺子屋、養 感しながら、石組みや苔張り、庭木の植樹 生会、お浄め行などのプログラムにご招待させ てていく特別会員「庭守り」を募集させ ていただきます。

京都を拠点にデジタルとアナログ領域を横断し

た活動を多岐に展開。お寺の WEB メディアか

ら新聞まで全体のクリエイティブ・ディレクション

③庭を(みんなで)まもる

庭師の手ほどきを受けながら一緒に庭を育 ていただきます。

域内コネクション: □ コミュニティ・バンク京信

地域のつなぎ手。住職・庭師・プロデューサー らをつなぎ、今回のプロジェクトが生まれる最初 のきっかけを生み出したおせっかいバンカー。

広報協力: Japanese Garden TV